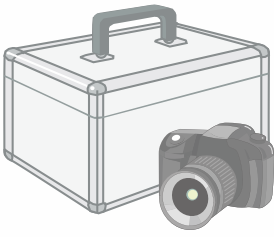


持ちを切り替え、常に次の瞬間に備え続けます。私の写真はその撮り続ける持久力の産物で、上手に撮りたいと思うものの、我が子を撮る親に勝つというものではありません。

スマホで素晴らしい写真が撮れる時代なので、それぞれ扱い易い物を楽しんで撮っている方が周囲に多くなれば、私は責任感によるプレッシャーが少なく、なにより撮り易くなります。

もっと写真を撮るということでしたが、私が撮った写真はそれぞれの団体や個人に関わる記録なので、残念ながらこの誌面掲載には不向きです。でも、私にとっては一九九七年の一念発起から写真を撮り始めたことで、行動範囲が広がり出会いを多くしたこと、このように『やまなみ』に執筆するという機会をいただけたのが最大のメリットだと思います。

いつも皆様には撮影にご協力いただきましてありがとうございます。



▲2013年12月 幹事忘年会



▲写真① 舞台写真



▲写真③ 色変対応後



▲写真② 色変対応前



▲2009年10月17日 千葉景子法務大臣就任を祝う会